

短歌

からからと落ち葉寂しく行き交ふをわが身にしみて手を差し伸べり
街路樹のナナカマドの実雪ばうし小鳥啄みをジッと待ちたり
鴨の群れ睡蓮の葉陰を泳ぎ行く特訓続く冬待つ姿

新町 徳地 美登
新町 中田 克子
本町 飛谷 富夫

あつま文芸友の会発行「文芸あつま第二十三号」から抜粋

■給食開始
厚真町給食センターより、念願の学校給食の供給が始まりました。生徒のみならず教職員も大喜びです。給食の内容・様子について、本校ホームページでも、連日、掲載しています。



Vol.238

厚高インフォメーション

Atsuma High school Information



学校の取組をご覧ください。
厚真高校ホームページ
<http://www.atsuma.hokkaido-c.ed.jp/>

▼8月19日(月)
自衛隊第七特科連隊第一特科大隊の方々による「防災教室」を行いました。災害対策特殊車両3台と15人の隊員に来ていただきました。同教室は、2年ぶりの開催です。内容は、災害時におけるけが人を安全に搬送する「消防夫搬送」や災害時装備品について学びました。特に、「消防夫搬送」ではさまざまな状況を想定して実践することができ、生徒たちから好評を博していました。

■交通安全教室 ▼8月30日(金)
苫小牧警察署交通第一課・厚真駐在所長・厚真町交通安全推進委員の方々に講師に招いて行いました。交通講師より、「自転車事故防止」「自動車運転免許取得」「北海道自転車条例」「自転車・自動車事故事例」など、身近な問題、かつ、誰にでも起こることについて説明をいただきました。交通安全標語最優秀表彰には、安孫愁斗さん(2年)の「使うなら 歩いて使うな スマートフォン」が選ばれました。

▼9月2日(月)
胆振教育局キャリアアップランニングスーパードバイザーおよびハローワークとまこまい学卒ジョブサポーターの方々に来校いただき、就職試験目前の3年生に対し、就職試験に向けて必要な準備、心構えや面接に臨む姿勢・態度などについて、実際の場面を想定した演習指導を受けました。就職試験本番目前とあって、生徒たちは真剣な面持ちで取り組んでいました。希望する就職先に内定することを願っています。

■被災1年 ▼9月6日(金)
定期試験期間であったため、当日は全校で黙とうを行い、弔意を表す半旗を掲揚しました。試験終了後の10日(火)に、全校集会を開き「校長講話」を開きました。講話では、「被災を忘れずに未来を築く」という生徒へのメッセージとなりました。

厚真町
地域おこし
協力隊

file.26



起業型地域おこし協力隊
なか がわ たか ゆき
中川 貴之さん (36歳)

着任 平成31年4月(1年目)
出身地 札幌市

これまでの経歴と移住のきっかけを教えてください

北海道各地で林業や製材の「木」に携わる仕事を14年間行ってきました。木のことをもっと一般の方にも身近に感じてもらい、地域の森を将来に引き継いでいけるような取り組みをしたいと思い応募しました。

どのような事業を展開していきたいですか

夢は「持続的な森の使い方をして、未来に引き継ぐこと」です。その第一歩として、「山を育てる」という事を大切にしている方々が天然林の間伐などによって切り出した丸太をできるだけ製材して、最大の価値を出せるようにしたいです。そして、木が消費者に届くまでの経緯やどのようになっているかといった、1本の木のストーリーを生産者と消費者に伝えていきたいです。

まちの方へひとこと

機材を貸していたいたり、分からないことを教えていただくなど地域の方々に本当にお世話になっています。少しずつ思いを形にしていけるよう頑張りますので、木に関することや地域のことなど、小さなことでも声をかけてください。

生活支援相談員 だより

社会福祉協議会 生活支援相談室
電話:29-7407

「ペットと暮らせなくなったらどうしよう」・・・仮設住宅を訪問する中で、このような声がよく聞かれます。


発災直後もペットがいるからという理由で避難所に行くことをためらったという世帯もありました。それだけ飼い主にとってペットはかけがえのない存在であり、家族の一員です。

仮設住宅においてはペットと生活することが認められていますが、これからの生活再建を考えた時にペットと一緒に住めるかどうかは大きな問題です。

しかし、すべての世帯が自宅の再建を目指せるわけではありません。災害公営住宅や一般の町営住宅

への住み替えを想定したときに、果たして心の支えであり癒しを与えてくれる存在のペットと共に過ごすことができるかということが、次の住まいを考える際の大きな悩みのひとつにもなっています。

すぐに解決できる問題ばかりではありませんが、少しでも課題の解消につながるように、生活支援相談員は一人ひとりの切実な思いや、小さな不安や困り事に時間をかけて寄り添っていきたいと思います。



災害ボランティアセンター だより

町災害ボランティアセンター
電話:29-7407 専用電話:080-1888-3140

「まだ、お手伝いを頼めるのですか?」と、先日もお問い合わせをいただきました。


災害ボランティアセンターの開設から1年が経過しましたが、今も被災された方々からのご相談をお受けし、ボランティアのご協力をいただきながら支援を行っています。

一番多いご相談は、解体する家の中の家財の片付けや処分です。

処理場に持ち込むための分別や積み込み、大きな荷物の移動には人手を要するため、ボランティアに依頼される方が多いようです。その他には仮設住宅の入退きの引っ越しなどのご相談も寄せられています。

ボランティア活動は土日を中心に必要に応じて平日も行っています。ボランティアの調整には時間をいただくため、できればお早めにご相談されることをお勧めしています。

他人に手伝ってもらうことに抵抗を感じて、相談をためらう方も多いようですが、困ったときはお互いさまで。ご自分の力だけで頑張ることも大切ですが、大変なときは遠慮なくご相談ください。



発表します!! 将来の夢&目標 上厚真小学校6年



陸上選手

伊藤 桜優くん



小説家

白野 さくらさん



amazonの会社員

真野 薫くん